

## リート マンスリー

2021.6.7発行



三井住友DSアセットマネジメント

作成：三井住友DSアセットマネジメント株式会社  
URL: <https://www.smd-am.co.jp>

## 1. 月間のリート市場の動き

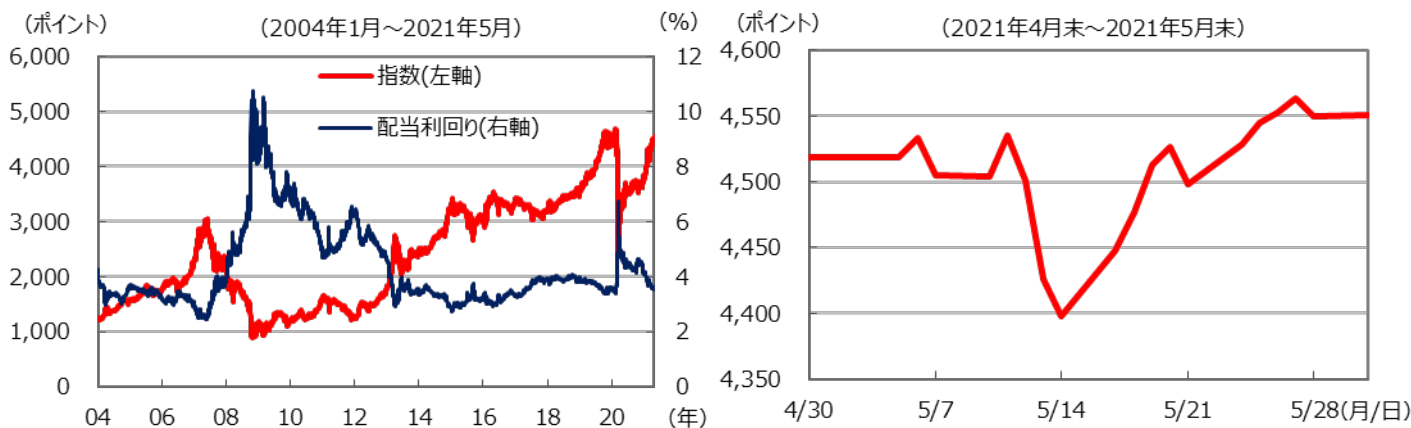
5月の東証REIT指数（配当込み）の騰落率は+0.7%となりました。

リート市場は、長期金利が低水準で推移するなか、安定した配当金が評価され上昇しました。緊急事態宣言が延長されたものの、新型コロナウイルスの感染がピークアウトしつつあることや、ワクチン接種の拡大などにより経済再開の動きが意識されました。用途別では、欧米で経済再開の動きが本格化する中、将来的な観光需要回復への期待が見られホテルリートが上昇しました。

不動産市況をみると、2021年4月の都心5区のオフィス空室率は5.7%に上昇しました。オフィスを縮小する動きに伴い、平均賃料も下落しています。

日銀によるリートの買入は行われませんでした。3月に行われた金融政策の点検では、市場が大きく不安定化した場合に大規模な買入を行うのが効果的との方針が打ち出されています。

## 2. 東証REIT指数（配当込み）の推移



	基準日	1週間前	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前
	2021/5/31	2021/5/24	2021/4/30	2021/2/28	2020/11/30	2020/5/31	2018/5/31
指数値	4,551.00	4,528.17	4,518.99	4,207.24	3,635.82	3,586.37	3,379.45
騰落率	-	0.5%	0.7%	8.2%	25.2%	26.9%	34.7%

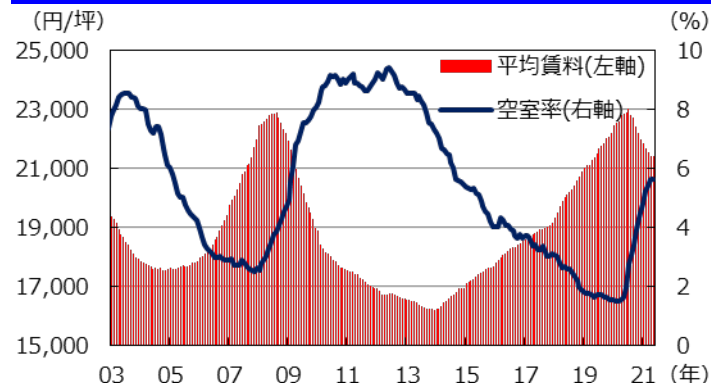
(注) 表中の騰落率は基準日をベースに該当期間の指数の騰落を表示。(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

## 3. 東証REIT指数の前月末構成銘柄

	銘柄名	構成比率
1	日本ビルファンド投資法人	7.0%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	5.9%
3	GLP投資法人	5.2%
4	野村不動産マスターファンド投資法人	5.0%
5	日本都市ファンド投資法人	4.9%
6	日本プロシスリート投資法人	4.8%
7	大和ハウスリート投資法人	3.9%
8	オルックス不動産投資法人	3.6%
9	ユナイテッド・アーバン投資法人	3.0%
10	アドバンス・レジデンス投資法人	3.0%
	その他	53.6%
	合計	100.0%

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

## 4. 東京都心5区の空室率および賃料の推移



(注1) データ期間は2003年1月～2021年4月。

(注2) 東京都心5区は千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

## グローバルリート マンスリー

2021.6.7発行



三井住友DSアセットマネジメント

作成：三井住友DSアセットマネジメント株式会社

URL: <https://www.smd-am.co.jp>

## 1. 月間のグローバルリート市場の動き

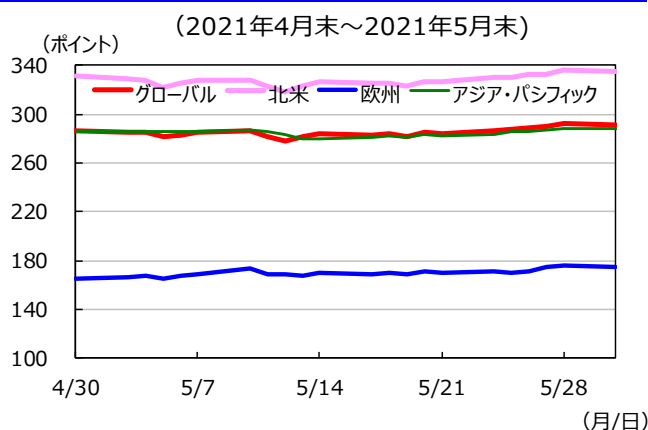
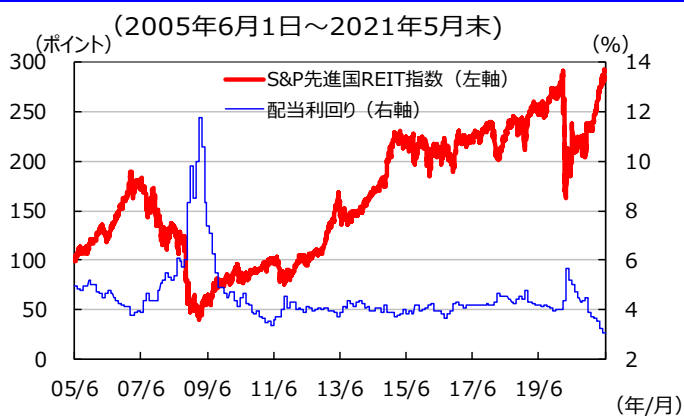
5月のS&P先進国REIT指数（除日本、配当込み、円ベース）は前月比+1.6%となりました。内訳は、現地通貨ベースのリート要因が+1.2%、為替要因が+0.4%でした。

米国リート市場は上昇しました。米国CPIが市場予想を上回ったことでインフレ加速、金利上昇への警戒感が高まり下落する場面もありましたが、金利上昇が一服し、行き過ぎたインフレ期待が後退すると米国リート市場は再度上昇に転じました。2021年1-3月期の決算から不動産市場のファンダメンタルズ（基礎的条件）の改善が確認されたことも上昇要因となりました。欧州、英国リート市場は、ワクチン接種の進展に伴う景気回復への期待から全般的に上昇しました。オーストラリアリート市場は、商品市況の上昇による景気回復の動きから上昇しました。シンガポールリート市場は、新型コロナウイルスの感染再拡大による行動制限強化などから下落しました。香港リート市場は、GDPや小売売上などの堅調な経済指標から景気回復期待が高まったことで上昇しました。

為替について、円は他通貨に対して下落しました。

※月末前日のリート価格を月末の為替レートで換算した当月の指数は+2.3%となりました。

## 2. 世界のリート指数の推移



	基準日	1週間前	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前
	2021/5/31	2021/5/24	2021/4/30	2021/2/26	2020/11/30	2020/5/29	2018/5/31
グローバル		1.6%	1.6%	16.2%	26.3%	40.6%	30.0%
北米		1.4%	1.1%	17.0%	28.6%	40.9%	36.0%
欧州		2.2%	5.9%	16.8%	27.1%	44.4%	0.5%
アジア・パシフィック		2.1%	0.9%	10.8%	14.1%	36.0%	28.4%

(注1) 世界のリート指数はS&P先進国REIT指数（除日本、円ベース）を使用。地域別データは、当該指数を構成する地域別指数。

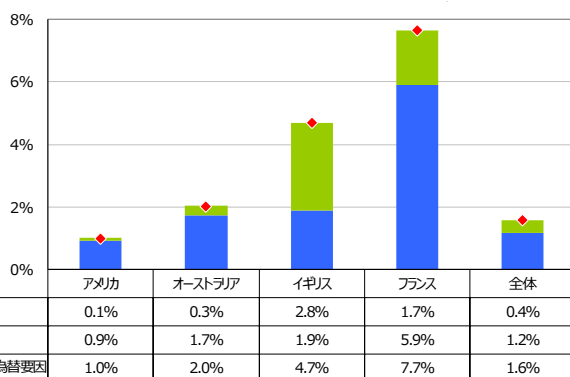
(注2) 上段の2つのグラフは、2005年6月1日を100として指数化。

(注3) 左表は作成基準日をベースに、各期間の指数騰落率を表示。休日の場合は、前営業日のデータを使用。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

## 3. 国別収益率

2021年5月の国別収益要因分解

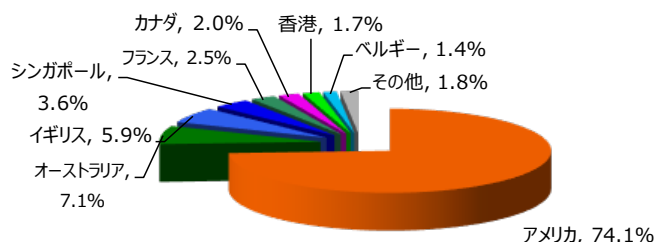


(注) S&P先進国REIT指数（除日本、円ベース）の国別収益率のデータをリート要因と為替要因に分解。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

## 4. 国別比率

国別構成比率（2021年5月末現在）



	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス	全体
構成比	74.1%	7.1%	5.9%	2.5%	100.0%
月間収益率	1.0%	2.0%	4.7%	7.7%	1.6%
寄与度	0.7%	0.1%	0.3%	0.2%	-

(注1) S&P先進国REIT指数（除日本、円ベース）の国別構成比率。

(注2) 寄与度は構成比と収益率の積。簡便的な方法により算出。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。